

OUSHO

巻頭特集 **今の時代を乗り越える・清心の覚悟**
対談／小泉清子・東商女性会名誉会長と吉川会長

世界で女性初の自動車殿堂入り
美安達子顧問にインタビュー

東商女性会新年懇親会報告

2009ウィンターセミナー

林真理子氏講演会

第40回全商女性連 沖縄大会／大商女性会50周年／広商女性会50周年
女性経営者交流会in新潟／女性会各部の活動 他

第15号 2009.5

東商LADY

Lady



創業62年、 着物を通して 日本の素晴らしい 文化の誇りを伝え続けたい。

今、世の中は大変厳しい経済状況です。

今年の東商女性会新年懇親会での小泉清子名誉会長のお話に

深く感銘を受けた会場の皆様方から、

小泉名誉会長のお話をもっと伺いたいという多くの声を代表して、

吉川稲美会長との対談が実現しました。

未完未熟で いつも反省ばかりしています

吉川：今日は全国に120もの店舗をお持ちで、着物の伝統文化をずっと守っていらつしやる小泉名誉会長に敬意を表して、和服で参りました。鈴乃屋さんを起業なされた時のお話し等いろいろ

お聞かせいただけたらと思います。

小泉：日本全国、津々浦々にきもの素晴らしさを広めたいと強く思っており、チェーン展開をしました。欧米に視察旅行に行って専門店の素晴らしさに開眼したのがきっかけです。でも、今はお店だけが多いのは自慢にならない、スクラップ・アンド・ビルドが顕著になり、良くないとどんどん閉めていま

す。重荷は省いて軽量化するべきで、見直すことが必要です。自分の魂と命をつぎ込んで出店した店を閉めるのは心が痛みますが、きもの事業を永劫に残すためには仕方がない、時代を読みながら臨機応変に対応することが肝心です。

吉川：創業は何年になりますか？

小泉：62年です。あつという間に経つ



小泉清子／プロフィール

1947年、上野広小路にて「きもの帯 鈴乃屋」を開業。1949年、戦後初のきもの展示会を上野池之端「観光閣」にて開催。1953年、きもの「両面着」と「両面名古屋帯」を開発し、特許申請、後年特許登録される。以後、きもの着用に関する数々の特許・実用新案などを取得。1964年、初めて皇太子妃殿下のご衣裳ご調整を承る。1984年、英国リバプールで開催された国際庭園博覧会で、海外初の本格的きものショーを開催。以来、海外でのショーの開催は多数におよぶ。NHK大河ドラマの衣裳考証を担当し27年になる。1997年勲三等瑞宝章を受章。

てしまいました。まだまだやりたいことがたくさんありますし、なかなか思うようにいかないし、いつも未完未熟で反省ばかりしています。

吉川：向上心を持つことはいつの時も大事ですね。

小泉：私は女性会の会長を17年間やりました。長過ぎたなと思いますよ。というのは社員から「このごろ特



篤姫は維新を推進し、今日の近代国家の礎を作りましたよね。

吉川…大変な洞察力ですね。

小泉…そして勇氣と決断力ですね。

吉川…引き込まれてずっと拝見しておりました。ところで、衣裳考証はどれくらいやっていらつしやるのですか？

小泉…27作目をやっています。

吉川…衣裳考証というのは研究したりで時間がかかり、大変なお仕事でしょう。

小泉…大変ですよ。もう20何年もやっていますが、担当した当初は毎週NHKに通っていたこともありました。このごろは、すべて任せられているから楽ですけれどね。

吉川…大河ドラマは世界で放映されますから重い責任でいらつしやいますね。



着物業の 美しい先生になりたくて

吉川…お店を始められたのは上野広小路でしたね。

小泉…建物は間口3間、奥行き4間、12坪。始めたときは、戦後の統制下で

着物は売れません。最初は染め替えをやり、染め替用の反物見本5本が総資本でした。終戦になって、洗い張りを始めました。洗い張りには、普通3ヶ月も4ヶ月もかかるのですが、洗い張り一週間でいたしますと貼紙したらたくさんのお客さんが来て、創業時は洗い張りとお染め替えばかりやってました。

吉川…そのようなところからスタートして…。成功への原動力は何でしょう。心がけていたことありますか？

小泉…心がけたのは、鈴乃屋の三原則『絶対満足・絶対奉仕・絶対保証』ですね。しかし、隅々まではなかなか浸透しないもので、今も全社員に更に徹底していきたいと思っております。開店から何年か経って（絹や綿織物などの販売禁止令解除は昭和25年4月）、やっと呉服屋として堂々と販売することができました。私は呉服屋さんで修行をしていますが。当時、3歳と4歳の二人の子を抱えて生活していかなければならぬ、何か仕事をしなければならなかったのです。そこで迷いに迷ったのですけれど、母の「あなたは着物が好きなんだから着物屋をやったら」という一言で決心しました。ただ好きで他に商売がなかったから始めたわけですね。吉川…お母様が背中を押したのですね。小泉…私の通った小学校は制服が洋服でしたが、帰るとすぐ木綿や銘仙の着物といったものに替えていました。その小学校の先生がとっても美人で毎日着物を取り替えてきました。小紋とか友禅とか柔らかい着物に袴をはいて、6年間教えてくれたのです。勉強をしながら先生の美しさばかりに見とれていたわけです。それで「こういう学校の先生になりたい」と思い始めました。その後、女学校に入ると、そこで教えてくれた先生も着物だったのです。結城とか大島とか地味な着物でしたが、私は絶対に着物を着て、ああいう先生になりたいとさらに強く思いました。

吉川…憧れだったのですね。

小泉…でも、念願の師範学校を落ちてしまいまして、それでもう私には先生になるという縁がないんだと深く思い込んでしまい、内務省に勤めていたのです。

全国の会員との固い友情。その絆が結ばれた事は私の大切な宝です。

許を取らないですね」って言われて、ふと気付いたら会長在任中の17年間ひとつも取っていないかった。商工会議所に日参することが多くて。ただ、特許はとらなかつたけど、17年間で得た全国の会員との固い友情。その絆が結ばれた事は私の大切な宝です。会長職はボランティアですが、一生懸命しましたのは「女の道は一本道」っていう覚悟からです。NHK大河ドラマで、篤姫の侍女菊本が篤姫の嫁入り前に言った言葉「女の道は一本道、引き返すは恥にございます」これを聞いたとき、絶対真実だと改めて思いました。この

「女のくせになんだ」と
反発もありました

吉川…鈴乃屋さんの名は、何からとられたのですか？

小泉…「鈴」は実家の苗字から一文字、「乃」は乃婦という母の名前からです。

父と母からの名にしたら、24画で画数がいいんですって。それで決めました。

吉川…そうだったのですか。

小泉…当初、お店独自の着物を作るのが呉服屋だと思い、私は素人だったので自分のブランドを最初から作っていません。でも当時、呉服屋さんは問屋から仕入れて、それを売る流通業が多く、全国の呉服屋さんはその土地の資産家や、名誉職だったんですね。だから、商工会議所の会頭さんに呉服屋さんが多かったのです。

吉川…そうなんですか。

小泉…その頃、女が呉服屋をやる事に対しての抵抗や反発は異常でした。「女のくせになんだ。着物は立派な男の商売だ。あんなの潰してしまえ」っていう人もいました。女が呉服屋をやるというのは戦前戦後、私が第一号だったのです。だから風当たりがすごく強かったですね。

吉川…まだ女性が表で働くことが少なかったのでしょうか。ところで着物のデザインは最初からご自分でなさっていたんですか？

小泉…呉服屋ってそういうものだと思っていたのです。その後、店を少しずつ広げて社員も次第に増えました。私は『忠臣蔵』の四十七士にあやかり47人までは社員を入れようと思いましたが、採用試験をすると絵が描ける人が不思議と採用になるんですね。こんなに素晴らしいデザイン力があるんだから、まず浴衣から図案を描きなさいと描かせましたら、その中から一つの柄が何千反と売れたことがありました。

吉川…すごいですね。それも出会いのひとつですね。ところで、美智子妃殿下のお着物をお作りになったとも聞きました。

小泉…何でも思ったら思い抜くことですね。これが一つの成功例だと思いません。美智子妃殿下とはそれまで直接ご縁はなかったのですが、着物のデザインをしている者として、皇太子妃のお

召し物を作らせていただきました。日夜切望していました。軽井沢の万平ホテルで展示会を開いたとき、たまたまいらした女官長さんが「ここにあるいくつかを妃殿下にお見せします」とお持ちになられ、それが始まりなのです。吉川…やはり思いは通じるものなのでですね。



小泉…すぐに連絡はなく、毎日毎日みんなに「東宮御所から電話があるかもしれない」と言っておいて、待っていたら1ヶ月ぐらいいして「東宮御所へおいでください」という連絡があったのです。

吉川…そうですね。

です。

吉川…すごいですね。

小泉…例えどんなに思いが強くとも、失敗に終わる事はあるんです。でも、実現したいと強く思っていた事のうちに、成功するのが6分で失敗は4分くらい。だから私は、ちよつとこれは良いと思うと6分の方に入れるよう、まっしぐらに突進します。その例が創業5年目に泥棒に入られ、店内の商品が一反残らず盗まれた時の事です。仕入れ先には膨大な支払いが残り、途方に暮れていた時に、展示会をやってみようといひらめいたの。池之端の料亭の200畳の大広間をやつとの思いで借りて、日本で初めての着物展示会を開いたら、押すな押すなの大盛況。損失分を取り戻したいと藁にもすがる思いだったのに、失敗から生まれた成功例となりましたよ。

今の時代だからこそ
必要なもの

吉川…女性会の皆さんからも、最近は大いに厳しい時代になったとあちらこ

こちらから聞きます。

小泉…その時代に合ったひとつのビジョンとか目標を持つ事ですね。私は毎年お正月に、今年はこれでいこうという標語を作るんですよ。去年は「希望」でしたが今年は「清心の覚悟」。「清心」というのは誠実、真つ直ぐ、武士道と言ってもいいくらいで清い、正しい、

という意味があるのです。そこで「清心」の心で今の時代を乗り越えるにはどうしたらいいかと、とことん考えた末、「覚悟」なんです。ご自分の愛する商売にはひたすらでなくてははいけません。先ほどの「一本道」ですね。一本道で行くには、自分の商売が好きでな

ければだめでしょう。好きなならどんな事があつたつてできると私は思っています。

吉川…昔から「好きこそもの上手なれ」とも言いますものね。好きって大事なことですね。そこに自分の思いを集中できますものね。

小泉…篤姫から学ぶのは、自分の事を考えないで命を賭けてやったから、日本が改革して維新になったところです。自分の事だけをしていたらだめなのです。大きな事、日本国の事をしなければならぬ、それは自分の商売にも共通です。一生懸命にやる、という事は命がけでやる、という事なのです。



吉川…何事も強い覚悟がないとできないですね。

小泉…私は「不況の時こそ着物」と言っています。不況の時は心の中がなんとなく不安だったり、辛くなったりしますでしょう。そんな時、着物姿の人に心が癒されたり心豊かになったりする、なぜでしょう。

吉川…日本文化の美しさでしょうか。

小泉…着物の形は1200年くらい同じ形なんです。平安朝時代から、襟があり、おくみあり、袖があり、これに打掛をするかしないかなんです。打掛をする人は身分の高い人、そうでない人は今のこの形なんです。しかも、反物から、袷は九つしか入っていない、たった九つでこの形ができていて動かしようがないんですよ。それが1200年続いている、すごいでしょう。これが着物の文化なんです。

吉川…あらためて日本文化の素晴らしさを感じます。

小泉…さらに柄の花鳥山水の中にも良さは含まれています。日本は四季に恵まれているでしょう。自然を見て怒る人はいないですよ。自然を見て心が

豊かになる。だから、この不況の時こそ、着物の良さをお客様にお知らせしなきゃだめだと思っんですよ。

吉川…日本人の自然と生きるというその精神が、着物に表わされているからでしょうか。海外でも着物ショーをなさっておられましたか、それは着物を通じての国際親善になりますね。

小泉…海外は着物ショーで何回も行きました。イギリスでやったときは劇場の周りが、観客で十重二十重になってしまいました。

吉川…すごいことですね。

小泉…着る物が、それを着る人にとつての、自然と共に生きる精神を表わしているというのは、それは世界中どの国にもない事、日本だけです。今の日本人はそれを誇りに思わない人がほとんどです。「古い」とかね、すっかり欧米化しちゃっている。でも、この誇りを取り戻さなくてはなりません。それを皆が、世界に伝えるようにしたいと思っんです。

吉川…本日は貴重なお話をありがとうございました。

一生懸命にやる、という事は命がけでやる、という事なのです。



東商女性会

平成21年

新年懇親会



1月19日、「日本の迎賓館」帝国ホテル東京にて、平成21年東京商工会議所女性会新年懇親会を開催致しました。石原慎太郎都知事、小淵優子内閣府特命担当大臣、岡村正会頭をはじめ多くのご来賓にご参加いただき、盛大にとり行われました。

第

1部のウェルカムコンサートでは初春を迎えるにふさわしい、生田流箏曲の榎戸二幸さん、大西愛子さん(箏)、寺島貴恵さん(ヴァイオリン)による美しい邦楽の調べを鑑賞しました。

箏とヴァイオリンの和・洋の「弦」のコラボレーションによる「春の海」、2面の箏による「さくら変奏曲」、十七弦箏曲として知られる「瀬音」の全3曲は、どれも荘厳な響きと奥深い音色で満たされた素晴らしい演奏に、場内は大きな拍手と感動に包まれました。



余

韻にひたりつつ、第2部の懇親会がスタートしました。

今年の司会進行は、太田みどり会員が務めました。

始めに会長挨拶の予定でしたが、ご公務の都合により石原都知事のご挨拶を頂戴することとなりました。

不安と危惧に包まれての幕開けとなった今年を「三重苦の時代」と銘打たれ、第一にアメリカの市場原理主義が引き起こした経済恐慌、第二には対策が遅々として進まない温暖化、第三に非常に毒性、感染力の



強い「H5N1ウイルス」について言及されました。

そして、「こんなときだからこそオリンピックを盛り上げていきたい」、というお話に続き、3兆円にも上ると想定される経済効果、また、民族意識、愛国心を超えた感動をもたらすオリンピックを、東京に招致するべく協力していただきたい、と述べられ、ご公務に向かわれました。

平成21年
東商女性会
新年懇親会



引き続き、吉川稲美会長の、ご挨拶と所信表明が左記の様に続きました。

昨今の経済環境は、アメリカから端を発した金融不安の影響で、日を追う事にその厳しさが現実の形となり、私たちの身近にも現れてきております。

先行き不透明な情勢に、更に不安を強く感じているのが現実ではないかと思えます。現代の異変といえる地球温暖化、世界経済に対する不安感、また人心の崩壊等々、日々起こり来る現象は、地球の危機、人類



の危機を私たちに教え、そして人間としての生き方、価値観を根本から考え直すときと教えてくれているように感じます。

私たちは自分にとって都合の悪いことがおきると、誰が悪い、彼が悪い、政治が悪いと、何事も総て人の所為にしてはいないでしょうか？

80年前のウォール街を襲った株の大暴落の世界大恐慌、またその後も何回となく起きたバブル、経済危機、こうした出来事から私たちは何を学んで来たのでしょうか？

人間の欲望は時を経て尚、利益ばかりを追求して来ました。こうした金銭至上主義が人間の心の潤いを失わせ、過度の競争が人の心を分断して来た結果、争いや社会不安をもたらしているのではと、思えます。

こうした状況だからこそ、私たち女性が今なせること、成さねばならぬ事は何かを、共に考え、行動したいと思えます。

私は、会長就任の際に、その行動理念を「報恩」「感謝」「育成」そして「競争から協調へ」「競争至上主義でない」「共生・調和」の社会を構築するための礎となるよう、行動を起こし、社会貢献活動を目指そうと掲げました。



社会に貢献…と申しますと、経営とは別
の問題と思われがちですが、社会は一人ひとりの集合体ですから、一人ひとりが、自己の向上を図ることで、家庭も、会社も、また社会全体の健全な発展に繋がります。このことこそ、最大の社会貢献であり、結果的には一番の近道になるのではないかと思います。

私たち女性経営者にとりまして、これからは益々大変な状況が押し寄せてくるでしょう。しかしその人にとって、乗り越えられない試練は、神は与えないと聞きます。

実は私は十数年前倒産寸前の体験を致しました。大きなプロジェクトを大手商社にとられ、また知人の紹介で採用した女性が詐欺をされ、その時は春になって桜の花が咲いたのも気が付かないほど、毎日必死でした。それでも、あく今月、これで倒産か…という日々を送っていたとき、部屋の中の大好きな蘭が総て枯れてしまっているのに気がきました。私はその時、ふと、私の苦しみを代わってくれたのだ、人間はまわりのすべてに生かされている存在であるのに、とそれを感じた時、感謝の思いが溢れ、その場で泣けました。

それまでの私は、だまされた、裏切られたと、相手に恨み辛みの日々、その間の私の心模様は日々嵐が吹き荒れているようでした。自分が正しいという思いで一杯であつた私の心が、自己の責任も認められ、そして生かされている存在であるという感謝の思いに満たされた時、私の心は嵐の後の静けさのような、平穏な幸せな思いで満たされたのです。

それ以来、嘘のように私の周りの状況は一変し、好転していったのです。

磁石はものを引きつけます。自分がどのような磁石になるのか、何を引きつけるのか、この大変な時代を乗り越えるには、やはり自分自身を高める事以外にないのではないかと思います。

ところで皆様「愛」の反対は何だと思わ

れますか？「愛」の反対は「無関心」なのだと思いました。今、日本社会に現れている現象は無関心、まさに愛を忘れた姿ではないでしょうか？

私は東京オリンピックの招致活動にもその現象が現れていると思えてなりません。

環境に配慮したコンパクトな会場づくりも、交通も、また安全も状況は総て日本が一番整っていると申しますのに、国民の意識が一番低い、無関心…これこそ、「愛」のない姿そのものではないでしょうか？

今、この東京でのオリンピック・パラリンピックを契機に、日本人の良さをもう一度取り戻すチャンスに致しませんか？

そして、かつてアインシュタイン博士が来日の際に「日本人のすばらしさは、きちんとした躰や、心の優しさにある。日本

人はこれまで知り合ったどの国の人よりも上だけでなく、すべてにおいて思いやりがあつて知的で、非常に感じがよい。この地球上に日本という国を作つて下さったことを神に感謝する」と講演で絶賛してくださいましたが、先人の築いてくださった素晴らしい国柄を、私たちはこのオリンピックを契機に復活させ、私たち女性の今年の目標も重ね合わせ、次の世代を担う子供達が、夢や希望が持てるような社会を残して参りませんか？

私たち女性会も力を合わせ、オリンピック招致の実現に向けて全力を挙げて協力していきたいと思っております。

女性の「笑顔」と「愛」は力強い社会を築きます。

昭憲皇太后様の詠まれたお歌に
「朝ごとにむかふ鏡のくもりなく、あらまほしきは心なりけり」

というお歌がありますが、日々このような想いを目標に、私たちは、今こそ「愛」と「笑顔」で、これからの大変な時代を協力し合いながら、共に乗り越え、そして社会を明るく、元気にして参りましょう。



次に、ご来賓の小淵内閣府特命担当大臣より、「女性会の活躍により女性の力を社会に示すと共に、多くの次世代の女性の目標になっているのは素晴らしいことだと思う。地元群馬では、女性のことを「かかあ天下」といい、一般的なイメージと異なり本来は社会に出て働き、家では家事も行う女性に対して敬意をこめた女性賞賛の言葉である。この「かかあ天下」の皆様を支えられ、また、力をもらいながら男女共同参画、少子化対策に女性として頑張っていきたい。日本は今大変な時代だが、吉川会長の言葉より女性の力強さを感じ、その芯の



強さ、前向きさ、明るさがこの不況を跳ね返すのではないかと感じた。ぜひ一人ひとりの力を発揮して、明るい日本の未来を築いていただきたい。」と励ましの言葉をいただきました。

次に岡村東京商工会議所会頭からは、「経済は過去に類を見ない困難な局面を迎えており、今は何よりも一日も早い景気回復を図るのが、最優先課題である。一方、



市場経済ととり巻く環境変化、少子高齢化、地球温暖化といった社会全体のあり方に関わる大きな課題、中長期的な課題にも取り組んでいかなければならない。女性会の皆様にも女性経営者の視点からぜひともご協力いただき、皆様とともに企業の力を1つにし、希望と明るさに満ちた未来の実現を目指していきたい。また、女性会の皆様にもオリンピック東京招致活動により一層のご協力をお願いし、東商女性会創立60周年を契機として、吉川会長を中心に一段と結束を固め、ますます発展するよう期待している。」とご挨拶いただきました。

次に小泉清子名誉会長から、「今年は先行き不安な情勢からスタートした。だからといって、不況だ、不景気だといっていないで、こんな時代だからこそ明るく前向きにチャレンジしていきたい。昔から日本の女性は、危機に直面しても難局を乗り切る分析力や判断力、対応できる素晴らしい能力を持っている。

今年が丑年で歩みも遅いかもかもしれないが、「牛の歩みも千里」というから、地道な努力を重ねていけば、報われるときが必ず来ると信じている。ここにいる女性会の経営者の方々は自分で経営を牛耳ってこられたのだから、これからも知恵とスピードの行動力で、しっかりと地に足を踏みしめていきたいと思う。決して「モウ」大変、「モウ」ダメと思わずに、「モウ」烈にまい進して「モウ」烈に働いて参りましょう。今は女性の力を発揮できる時代だと思ふ。このときこそ、ピンチをチャンスに！」と力強いお言葉を頂戴しました。

続いて井上象英副会長より、来賓のご紹介へと移り、その後、齋藤朝子名誉会長よ



東商女性会
平成21年
新年懇親会



り、「景気の「気」は気持ちの「気」。元氣を出して頑張っていきたい。東京大空襲後、経済成長をしてきた日本人は本当に力強い、教育レベルの高い、勤勉な国民だと思う。

そういう危機を乗り越ってきた日本に、この危機を乗り越れないわけがない。このピンチを自分の、企業のイノベーション

に。いい機会だと思ってみんなで知恵を出し合い、より一層いい日本にしていけるのがよいのではないかとご挨拶されました。そして参加企業のご繁栄、そして皆様のご健勝を祈念して「おめでとうございませう」の発声とともに乾杯。一気に会場は和やかムードになりました。

お

いしそうな料理が運ばれてくる中、調理部宴会調理課メニュープランナー長沼様のご説明によりまずと、料理は肉のコースで、前菜には「オマールえび」、スープは「コンソメ」、メインは女性にうれしいコラーゲンたっぷりの「牛頬肉の赤ワイン煮」、そしてデザートは「フロマージュのムース」どれも美味しく、皆さん舌鼓を打ちながら会話も弾んでいる様子でした。

懇親会では同じテーブルの会員同士、また、違うテーブルの方々同士がご歓談されておりました。

途中、顧問・相談役の紹介、新人会員の紹介をほさみ、いよいよお待ちかね抽選会の始まりです。

会場である帝国ホテル様よりご寄贈のペア食事券をはじめ、今年も役員の方々より、着物、宿泊券、商品券など豪華なご贈品をいただきました。

当選番号が読み上げられる度、会場のあちこちで歓声と拍手が沸き起こり、当選された方もされなかつた方も喜色満面、会話にさらに大きな花が咲いているようでした。





東商女性会

平成21年

新年懇親会



終始にぎやかな雰囲気の中、最後に阿久津扶見副会長が閉会のご挨拶として、「これまでの女性会の良い文化を継承しつつ、新しく改革をしていく時期に来ている。」

会員同士のコミュニケーションの場、お互いが啓蒙し合える組織として築いていかなければならないと考えている。そして、力を出し合い、知恵を出し合ってたくましく前進したい。皆様と協力し合って女性会を真剣に考えていきたいと思っている。残りの任期で、どのようにしたらよい組織にできるか、皆様とともに努力していきたい。これからも女性会を暖かく見守っていただき、会員同士は仲良く協力し合ってよい女性会を作っていきたいと思っている。」と熱く抱負を語り、平成21年新年懇親会は幕を下ろしました。



創立50周年記念式典

広島 商工会議所 女性会

10月17日リーガロイヤルホテル広島において、広島商工会議所女性会創立50周年記念式典が、厳かなうちにも盛大に催され、東商女性会からも19名が参加いたしました。

「昭和33年に創立された当女性会は“平和都市広島”を揺ぎ無きものとする為、全会員が不撓不屈の精神の下、不断の努力をして今日を迎えました。」という高橋保子会長の式辞は、本大会テーマとして掲げられた「いのちと平和の大切さ」に連なり、その精神が真髓として貫かれていました。

広島県知事を始め多くの来賓の方々（広島市長、広島商工会議所会頭、吉川稲美全国商工会議所女性会連合会会長）の祝辞も、それに呼応するかのように重厚でした。



記念演奏は大倉正之助氏の「三番三」、記念講演は聖路加国際病院名誉院長の日野原重明氏による「いのちと平和をもっと育てよう女性の手で」という、本大会にふさわしい内容でした。

翌18日の「世界遺産 厳島（宮島）見学」は厳島神社参拝後、焼失以来140年振りに再建された大願寺護摩堂内で、白檀のご本尊不動明王に触れ、移動しての厳島弁財天本堂大願寺内では、ご住職から当寺の由来等を伺って、国の重要文化財である「薬師如来」「釈迦如来」を、特別に拝観させて頂きました。広島女性会の皆様の、いずれもご当地最高を供して下さった親身なおもてなしには、終始頭が下がる思いでした。



大阪 商工会議所 女性会

9月29日リーガロイヤルホテル大阪にて、大阪商工会議所女性会創立50周年記念式典が開催され、東商女性会からも、多数がお祝いに参加しました。上西美智子大阪商工会議所女性会会長による、出席の皆様と女性会を育ててくれた大商本体への感謝の言葉の後、創立50周年記念事業実行委員長として尽力された尾崎公子大阪商工会議所女性会名誉会長より、今回大阪商工会議所ホールに記念寄贈する緞帳に込めた思いを「四季折々の空の色のまま清々と流れる川面に、会員各人が花や紅葉かといったそれぞれの個性を映し、歴史を未来へ繋げんとするその有様を…」とうかがいました。



寄贈を受けて野村明雄大阪商工会議所会頭からは、大商女性会の姿を大船団に例え、万葉集より「女帝齊明天皇治世下、後の皇太后となった額田王が詠った『※にぎたづ熟田津に船乗りせむと月待てば、潮もかなひぬ今はこぎいな』の如く、心を一に活躍する女性会の姿は素晴らしく、ぜひ明るい未来に向け共に大商を牽引して下さい。」との激励が返されました。続いて吉川稲美全国商工会議所女性会連合会会長より「浪速の女性は、どの様な局面においても成功への粘り強さで有名です。」という祝辞がありました。

記念講演会では「シャープを変えた2つの宣言」と題し、町田勝彦大阪商工会議所副会頭より①人を大切にする経営、②ナンバーワンよりオンリーワン、という企業繁栄の道をうかがいました。

懇親会は菖蒲の壁画を背に、市川笑也丈の舞う菖蒲の舞で盛大となり、続く尾崎名誉会長主催の二次会も温かなくつろぎの中、小泉清子関商女性連合会長の挨拶に拍手が沸き起こりました。一同名残を惜しみながら、大商女性会の皆様より笑顔のお見送りを受け、宴の夜を後にしました。



※熟田津港で、月明かりに出発を待つ船団よ、時は来た。君の心の海路一路に、我ら全力で向かおう！

女性経営者 交流会 in 新潟

11月21～22日「首都圏エネルギー懇談会 (<http://www.syuuto-ene.com/>)」主催による「電気」の生産地(福島県・新潟県)と消費地(首都圏)の女性経営者交流会に、東商女性会より25名が参加致しました。昨年度は新潟県中越地震の発生に伴い開催が見送られました。が、今回は、柏崎刈羽原子力発電所 (<http://www.tepco.co.jp/nuk-np/index.j.html>)並びに地域の復興状況を確認するとともに、改めて生産地と消費地の女性経営者が、それぞれの立場からエネルギーに関する理解と、交流を深める大変良い機会となりました。

柏崎刈羽原子力発電所見学

平成19年7月16日午前10時13分頃起こった、新潟県中越沖地震から1年4ヶ月余り経った柏崎刈羽原子力発電所を訪れました。3号機所内変圧器の火災、6号機漏水に伴う放射性物質の海への流出、7号機主排気筒モニタからの放射性物質検出は、まだ記憶に新しいところです。ギネスブッ

クにも記載される世界最大の原子力発電所に、地震が与えた影響について説明を受け、被災の経験を活かす、災害に強い発電所としての耐震強化工事や、初期消火の為に所内消防団結成といった現状を見学いたしました。高度な専門性を有する原子力発電所ですから、全てを理解する事は到底不可能でしたが、東京電力並びにグループ企業が、地域社会の一員として安全責任を担い、設備の点検・調査・改善に邁進なさっていることが良く解りました。

講演会及び懇親会

日本海を臨む岬館にて、大相撲解説者の舞の海 秀平氏による講演に引き続き、吉川稲美会長の「大きな地震に見舞われても、人命に影響を及ぼさなかった原発の技術力に感服します。」という挨拶で懇親会が始まりました。次に松村保雄柏崎商工会議所会頭、猪俣寛伸刈羽村商工会会長が

「二日も早く、点検・復旧仕事を終え、地域の方々の理解を得た上で、東京に送電を開始したい。」と語って下さいました。その後、品田るみ子刈羽村商工会女性部副部長の音頭で、海の幸を品良く仕上げたフルコースに銘酒「越の誉」で乾杯。新潟県・柏崎商工会議所女性部、刈羽村商工会女性部、福島県・相双地区商工会女性部連絡協議会のメンバーとの再会を喜んでいると、舞台からは眼下の荒波を感じさせる大鼓の演奏が響きました。震災当時のご体験を伺い「こうして交流が出来るようになった事が幸せ。」とのお話に、思わず目も潤みます。各テーブルでは記念撮影に舞の海さんがモチモチ、さらにおしゃべりに熱が入る中、吉田岑子双葉町商工会女性部部長の「再会の喜びを胸に、次の交流までお互い元気で励みましよう。」のお言葉で、名残惜しくも宴が終了しました。



第40回 全国商工会議所女性会連合会

沖縄全国大会



全国403カ所の女性会
2700余人の参加者が一同に会し、
会場は終始われんばかりの熱気と
感動に包まれました。



平成20年11月27日、29日、沖縄県宜野湾市、沖縄コンベンションセンターに於いて、全国商工会議所女性会連合会第40回沖縄全国大会が、盛大に開催されました。那覇空港各所に「祝全商女性連第40回大会」の張り紙が見られ、全国から到着する会員は到着ゲートで、横断幕を掲げた沖縄の皆さんより歓迎を受けました。



海を臨むコンベンションセンター前広場では、総勢100名を超える子供達が、民族舞踊のエイサーで迎えてくれました。太鼓を叩きながら、かわるがわるの何時間も踊



り続ける少女の勇壮な姿に、誰もが足を止めて見入りました。また、会場内外では障害を持った方々が生け

て下さった花々が、大らかな沖縄の自然美を現して、一層の華やきを添えていました。別館での特産品市では販売のみならず、古式ゆかしい「ぶくぶく茶」のお点前や三線の演奏が行われ、琉球時代から伝わる祝宴のためのテーブルセッティングや琉球漆器、名高い紅型染め、蛇皮線の歴史など学べるコーナーも充実していました。

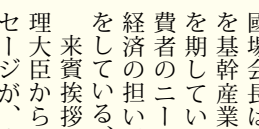


27日夜の懇親会では、沖縄特産の食材を使った料理の数々をブツ

フエ形式で楽しみ、その間にも舞台では優美な琉球宮廷舞踊をはじめとする数々のアトラクションが次々と繰り広げられました。最後は沖縄女性会の皆様の指導によるカチャーシーを、フロア全員で踊り心を通わせました。

28日朝には、この大会の記念植樹が、会場のある沖縄海洋博記念公園で、吉川稲美全国商工会議所女性会連合会会長の手によって行われました。開催された式典も、滞りなく進行し、主催者側として、吉川会長、岡村正日本商工会議所会頭、名幸諄子沖縄商工会議所女性会連合会会長、岡場幸一沖縄県商工会議所連合会会長それぞれからご挨拶がありました。最初に壇に立たれた吉川会長は、まず謝辞を述べられた後、世界恐

融危機が我が国経済に及ぼす甚大なる影響に鑑み、将来の我が国経済の持続的成長の為に麻生太郎内閣総理大臣へ数々の要請をなされたことと語られました。また、我々女性会に対し、「個が光るイノベーション」の実現に向け、更なる柔軟な感性と行動を期待すると共に、女性のエネルギーとパワーを全国津々浦々で発揮し、地域に貢献して欲しいとのエールを戴きました。



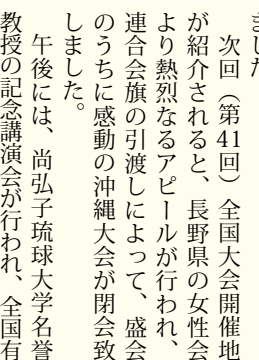
名幸会長は、第40回という節目の本大会が、平和・友好の架け橋である「ちゅら島」沖縄で開催された事の意義深さについてふれられ、本大会成功の為に一年をかけてキャラバン隊を組織し、全国にピーアールして来たというエピソードを話されました。

主催者として最後に挨拶された國場会長は、沖縄県は、観光産業を基幹産業と位置付け、経済発展を期しているが、女性経営者が消費者のニーズを的確に掴み、地方経済の担い手として多大なる貢献をしている、と述べられました。

来賓挨拶の冒頭で、麻生内閣総理大臣からの本大会を祝するメッセージが、吉川会長が代読という形で披露され、次に二階俊博経済産業大臣からの祝辞を司会者が代読されました。内閣府沖縄総合事務局福井局長の祝辞を影山洋一次

長が代読され、女性への賛辞で締め括られました。最後に、沖縄県・仲井眞知事の祝辞を安里カツ子副知事が代読されました。

その後、式典は肅々と進み、第7回「女性起業家大賞」授賞式に続き、全国商工会議所女性会連合会表彰授与式では、東商女性会からは特別功労者として、当日ご出席下さいました安間百合子前副会長が表彰されました。いよいよ式典も佳境に入り、行動宣言（環境問題・教育問題）が高らかに読み上げられ、拍手のうち採択されました。



次回（第41回）全国大会開催地が紹介されると、長野県の女性会より熱烈なるアピールが行われ、連合会旗の引渡しによって、盛会のうちに感動の沖縄大会が閉会致しました。

午後には、尚弘子琉球大学名誉教授の記念講演会が行われ、全国有数の長寿を誇る沖縄県の、「食の秘密」が科学的に説明されました。

翌29日のエクスカージョンも素晴らしく、まさに県をあげてのもてなしを受けた思いでした。また、ほんの数日でありながら、こんなに特別な経験や充実した思いを得ることが出来たのは、やはり女性会の集まりであったからだと強く感じた3日間でした。

横浜開港 150 周年記念 前夜祭

平 成21年2月25日、横浜商工会議所女性会主催の横浜開港150周年記念前夜祭が、由緒あるニューグランドホテルに於て大々的に開催されました。

横浜港は開港以来、数々の国際的な歴史の舞台になったことがあり、往時にちなみ各国国歌が弦楽演奏される中、安政五カ国条約を締結した国々から代表ご夫妻が入場し、松澤成文神奈川県知事、中田宏横浜市長ほか多数のご来賓や、北海道より沖縄までの全国からの参加者が、この晩餐舞踏会に集いました。

東商女性会からは吉川稲美会長をはじめとして15名で参加いたしました。式典は港を望む「ペリー来航の間」で始まり、パーティは、横商女性会のユニークな企画で鹿鳴館時代を髣髴とさせるドレスに身をつつみ、クラシックなホテルの印象にマッチして素敵でした。会食はよく吟味されたペリー来航時の再現メニューを美味しくちょうだいしました。



その後はフロアを変え、レインボーボールルームで鹿鳴館時代にさかのぼったかのような大舞踏会の時間となりました。初めての方が多く最初はとまどいましたが、先生の適切な指導もあり、だんだんと息が合い、来賓の方々もとても楽しんでいらっしゃる様子が見受けられました。

本館2階ロビーでは神奈川特産の物品、開港記念の品々を販売、またあるコーナーでは記念写真展や花展、女性会員によるボディペインティングや書画の実演なども行われておりました。

「いろいろな会に出たけれど、こんな面白いパーティは初めてだ。」とおっしゃる方がいましたが、まさにその通り華やかな楽しいパーティでした。

ゴルフ同好会

ゴルフ同好会報告

平 成20年度の同好会でのゴルフも、4月は桜が満開の桜ヶ丘カントリークラブ、夏は恒例の蓼科フォーラム宿泊にての2プレー、秋は紅葉のきれいな埼玉県川越カントリークラブ、そして我孫子カントリークラブでのチャリティーゴルフと開催してまいりました。特に岡村会頭を囲むゴルフの会では、素晴らしいお天気に恵まれました。富士山を目の前にして1度はプレーしてみたいと言われる太平洋御殿場コースだったため、同好会参加人数20名の枠は、キャンセル待ちになるほどの盛況でした。



すでに7年目を迎えようとしている同好会も、これからいかに楽しく、また、多数ご参加頂くにはどうしたらよいかと、同好会幹事で話し合い、メンバー全員にアンケートをとりました。今後はその結果を参考にしながら、進んでいきたいと思っております。

平成20年度 第2回

新会員との ランチミーティング



10月24日のランチミーティングは東商ビル4階特別会議室で、新会員10名、現在活躍中の会員21名の参加で、昼食後のコーヒーをいただきながら開催されました。最初に吉川稲美会長より「現在の国際的経済危機を乗り越えるためにも、女性会の活動を通してお互いに自己の向上に努めましょう。」という挨拶があり、オリエンテーションに移りました。

〈女性会組織・事業と今後の女性会の課題〉の総括説明は吉川会長、〈東商女性会各部の活動〉は、井上副会長より研修部、阿久津副会長より社会貢献部とビジネス事業部、若林リーダーより交流部と、現在の各部の報告と紹介がありました。

続いて参加者全員の自己紹介、新会員の会社内容等の紹介、仕事内容への質疑応答や名刺交換等、活気のある有効な時間を過ごしました。



20年度のランチミーティング開催は2回でしたが、これからも新会員にとって、また現会員にとっても魅力ある会にしたいと願っております。



女性会の顧問である美安達子さんが、 2008年(第8回)日本自動車殿堂に 殿堂入りされました

美安 達子(みやす みちこ)氏 略歴

1929年8月 兵庫県に生まれる
1946年3月 神戸市立神港高校卒業
4月 丸紅株式会社入社
1951年5月 同社退社
6月 ベビー用品専門店経営
1967年4月 株式会社大阪電子頭脳センター設立
代表取締役社長となる
1973年4月 株式会社電腦と社名変更

日本自動車殿堂と聞いても、ぴんと来ない人が多いかも知れません。日本自動車殿堂(Committee of Japan Automotive Hall of Fame, 略称: JAHFA)とは、日本における自動車産業・学術・文化などの発展に寄与し、豊かな自動車社会の構築に貢献した人々の偉業を讃え、殿堂入りとして顕彰し、永く後世に伝承してゆくことを主な活動とする大変権威のある団体です。

発祥地アメリカでは既に90年の歴史がありますが、日本は2001年に設立されました。今までの著名な被表彰者には、本田宗一郎氏、豊田喜一郎氏、石橋正二郎氏などがおられ、今年も、元米国日産社長の片山豊氏、日産自動車株式会社元専務取締役の田中次郎氏、スズキ株式会社元代表取締役会長の稲川誠一氏、日本大学名誉教授で工学博士の景山克三氏らと共に受賞されました。女性の殿堂入りは、日本はもちろん世界でも初の快挙だそうです。

美安さんの受賞理由は以下の通りです。

車社会の安全と安心を育む適性検査の開発と普及に貢献

- 1 自動車社会の安全と安心を育む創造的な企業の道を拓く
- 2 安全適性検査「OD式安全性テスト」の開発と普及
- 3 情報技術を用いた心理学の実践的活用による安全教育の推進

美安さんが初めて起業したのは22歳。ベビー用品専門店チェーン店を4店舗出すほど成功したものの、「お金でだけでなくもっと社会に貢献できるビジネスがしたい」ということで、当時電通で活躍していた西島正人氏(株式会社電通代表取締役副社長)に新規ビジネスについて相談を持ちかけました。

当時、日本は高度経済成長の真っただ中、企業は利益追求に走っていましたが、一方で公害や交通戦争といった問題も露呈してきており、美安さ

所属団体

社団法人日本交通科学協議会
日本交通心理学会
社団法人日本心理学会
東京商工会議所
財団法人交通事故総合分析センター
社団法人経済同友会

社会活動

1994年9月～2003年1月
通産省中小企業政策審議会委員
1995年～
工場立地及び工業用水審議会委員
1996年6月～2000年
大蔵省関東財務局財務行政モニター
1997年～
中小企業政策審議会組織小委員会委員
中小企業政策審議会調査小委員会（中小企業白書）委員
1998年～
中小企業政策審議会共済制度小委員会委員
2000年3月～2002年2月
経済産業省中小企業総合事業団評議委員
2000年4月～2007年9月
財団法人交通遺児育英会理事
2000年11月～
東京商工会議所一号議員 同時に港支部相談役、女性会顧問
2001年～
中小企業政策審議会経営安定部会委員
2001年2月～
経済産業省 中小企業政策審議会経営安定委員
2001年2月～2003年1月
経済産業省 中小企業政策審議会企業制度部会委員
2003年4月～
財団法人交通遺児母の会理事
2007年6月～
財団法人協和協会評議員
2007年11月～
社団法人日本交通福祉協会理事
2008年5月～
財団法人視聴覚障害教育福祉協会評議員

んはそこに目を付けました。しかし、これらの問題の原因は、車の欠陥・天候・道路の欠陥など、解決するのは至難の業です。美安さんは戦争でお姉様を亡くされており、人の命の尊さを人一倍痛感している方であったので、人間の不注意で起こる自動車事故を少しでも減らすために注意喚起ができないかと、安全適性テストの開発に着手したのです。

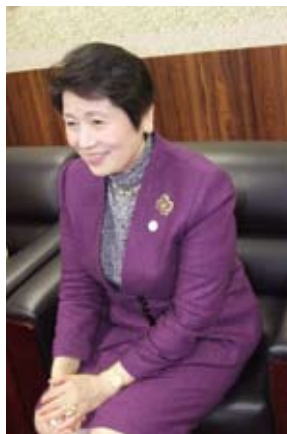
今でこそ全国の主な自動車学校に導入されている「OD式安全性テスト」ですが、当時はコンピュータで適性を計ることなど想像もつかず、大変なご苦労をされたと伺いました。しかし、行政指導により指定自動車教習所で適性テストが義務化されるようになり、情報化社会を迎えその特徴と性能が社会に認められるようになって、一気に脚光を浴び評価が高まりました。

また美安さんは、創業当時から交通事故の撲滅を目指し「交通安全研究所」を立ち上げ、運転に関する「初心者運転教育」や「ドライバーの再教

育」等を行い、交通事故に関する様々なデータ分析も行っています。さらに2004年からは事故防止と交通安全の質向上のための「交通安全セミナー」を都内のホテルで開催し、安全運転の普及に努めています。

「^{まこと}苟に日に新たに、日に新たに、また日に新たに」

このことばを座右の銘として、美安さんは、株式会社電脳創業から40年、「社会のために役立つこと」という理念に一分の狂いもなく、今も邁進し啓蒙し続けていらっしやいます。



（平成二十一年一月九日インタビュー）



Winter Seminar

平成21年2月18日、
国際文化会館にて初のウィンター・セミナーが開催されました。

春寒の中にもうららかなさを感じさせる2月18日午後、港区六本木の国際文化会館にて『ウィンター・セミナー』が開催され、多くの会員が参集いたしました。まずは吉川稲美会長の力強いあいさつから始まりました。

「従来の東商女性会の研修は、大きくはサマー・セミナーを、その他小規模で何回かの研修会を行う形式でしたが、数回に分けるよりも、それらをまとめて内容の濃い研修にしたいと、今回初めてウィンター・セミナーの企画が実現いたしました。

16日の内閣府発表によると、日本のGDPは12.7%減少となったそうです。これは第一次石油ショック以来の事で、日本経済は戦後最悪の不況に陥ろうとしています。

ただ、業績悪化の原因のすべてを不況のせいにするのは、いかがなものでしょうか。己の会社とその業界の中で占める割合が1ケタ～2ケタ前半だとしたら、それは「逃げ」言い訳でしかないと言われます。

工夫を重ねる事、長い経験の中で培ってきた知恵、そして生き方の姿勢がビジネスに影響してきます。経営者のみならず、人それぞれが真剣に考える時代がやって参りました。

この勉強会で学んだ事を日々の生活に生かし、有意義な人生を送りましょう。」

2009 ウィンターセミナー

平成21年2月18日(水)
於：国際文化会館

スケジュール

時間	所要時間	内容
1300~1320	20	【開会・オリエンテーション】

二宮尊徳に学ぶ

質素・勤勉・儉約による至誠の生涯

岡田 幹彦 氏

日本政策研究センター・主任研究員



Winter Seminar

日本の歴史や人物についての研究で、第一人者でいらっしゃる岡田幹彦氏を講師にお迎えし、「二宮尊徳（金次郎）」の生涯を通して、その人物像について講演をしていただきました。

講演の冒頭「混迷する現在の内外情勢の中で、歴史的転換期を迎えている私達日本人は、今こそ日本の歴史や歴史上の人物に学ぶべき時ではないでしょうか」とお話しになり、誇るべき先人の生涯を知り、その叡智に触れる事により共に再び学び直すというメッセージを、会場の私達におくられました。

背中に薪を背負って読書をする銅像で有名な「二宮尊徳」ですが、筆舌に尽し難い年少時の苦難の中での努力が、父母への感謝の心、勤勉と熱烈な向上心によって支えられていたという事を知り、逆境に在るときの人としての在り方、また教育の重要性について深く考えさせられました。十代半ばにして父母と死別し、一家離散という悲惨極まりない境遇にあってもなお報恩感謝と不撓不屈の向学心、求道心を以って一心不乱に努力した尊徳（岡田幹彦講師レジュメより転載）を作り上げたのは、やはり父利右衛門、母よしの存在でした。尊徳の天性の慈悲心は、この両親の背中を見て育つ



たからに他なりません。

尊徳は、艱難辛苦をなめながらも、弱冠20歳にして自家の再興にとりかかり、24歳にしてこれを成し遂げます。

その後、小田原藩家老服部家の召使として働き、そのかたわら更に学問に励み、やがては服部家の家政の立て直しも成功させたのです。この実績が小田原藩主大久保忠実の知るところとなり、下野国桜町（栃木県芳賀郡二宮町）の復興を命ぜられます。荒廢著しく復興不可能と言われたこの桜町を、十年かけて甦らせたばかりでなく、人心を生き返らせ、加えて余財をももたらしました。以後、尊徳の指導を求めて全国か

ら志願者が殺到し、生涯六百余村を復興しました。有名なものでは相馬藩の復興があります。十年かけて成し遂げられた復興事業成功により、当藩はやがて幕末の理想郷と称えられるようになりました。

また尊徳は、後世の日本人に、その高貴な精神、信念を遺訓として、この未曾有の不況の時代を生きる私達にも有難い言葉を残してくれています。

① およそ事を成さんとして成就せざるものは速やかなる事を欲し、一挙にその業を遂げんとするが故なり。

② 慎めよや少子。速やかならん事を欲するなかれ。速やかならんと欲すれば即ち大事を乱る。勤めよや、少子。倦むなかれ。

③ わが道は至誠（極めて誠実なこと）と実行のみ。

昨年の「上杉鷹山」についての講演時と同様、資料として美しい手書きのレジュメを配布いただき、それを拝見しながらの受講は、緊張感とともに大変充実した一時でした。

未曾有の景気後退下における 経営者の対応

女性経営者の質の向上と研鑽のために

大久保力氏

東京経営者協会顧問



Winter Seminar

百年に一度の未曾有の経済危機といわれている現況に、大久保力氏を講師にお招きして、大変興味深いテーマでの講演が約一時間半にわたって行われました。

私たちの経済活動は、人力から石炭、石油、太陽光、風力…と、エネルギー革命と共に目覚ましい進歩を遂げ、今やICT（情報通信技術）の普及により、ビジネスが24時間地球規模で動いているという国際化とスピード化を実現しました。近年のこうしたビジネス環境の変化は、同時に大幅なコストカットも可能にしました。今回の未曾有と言われる景気後退を迎えた日本の現状は、少子高齢化社会であると同時に、生活に必要な物は全て持っているという成熟経済社会です。こうした状況での世界的な経済危機を経営者としていかに対応するべきか、企業として生き残る経営とは、一体何をすれば良いのでしょうか。

第一に、景気が回復し好調になった時、人（労働者）は居なくなります。不況と言われるこの時期こそ、良質な労働力の確保が一番重要になってきますから、働く側が一番気になる給与体系も「成果主義」（日本には馴染まなかった）だけではない新しいシステムの構築が急務です。例えば〈賃

金〓年功給60+能力給40〉というように、入社10年目までは年功給だけにし、それ以降は各自の実力に応じて能力給で差をつけるというような、日本の慣行にあった体系を考える必要があります。また能力給の格差をつけるための評価者の育成も不可欠になってきます。また、給与体系以外に、魅力ある職場にして行く事も重要です。

現在大企業でも、10人に1人がメンタルヘルスについては危ないと言いますが、予防の為の十分な配慮をするなど、働く人を大事にするきめ細かい人事・労務管理上の体制が必要となります。「CS」顧客満足



経営の前に、まず「ES」従業員満足の経営であるべきなのです。

生き残るための企業経営として、まずコストを下げられない企業は生き残れなくなります。また、従来型の利益を確保した〈コスト+利益〓価格〉という図式は、今やもう成り立ちません。コスト競争のみならず、他社が簡単に追従できないサービスの提供をするなど、企業の付加価値重視の経営が求められます。この付加価値を創造するのは、経営者の前向きな姿勢と、その企業のレピテーション（評判・評価）で、そのレピテーションを高めるのが「経営者の質」です。人格・人柄の良さ（究極の能力は人望、知識、コミュニケーション力、時代感覚・将来を見通す力、決断力と強いリーダーシップ↓組織をグルーピングできる良きオルガナイザーである事、心身の健康などの諸要素が求められます。女性経営者は比較的、遠慮なく前に出る人が多く見受けられますが、毅然と企業の為を思って行動する女性経営者の企業が、実際に売上を伸ばし成長しています。

こうした経営の質を高めるためのパフォーマンスとして、不易流行（絶え間ない改革）、ABC（当たり前前）のことをバカ

にみたいにちゃんとやれる) 人材の育成、企業の顔としての言動、現場志向、経営戦略の共有化、企業が求める人材の明確化、経営スローガンをはっきり打ち出す等が挙げられます。経営者たる者、常に時代感覚を肌で感じ取り、次の決断に備えなくてはなりません。そのためには、街に出て定点観測を行ったり、色々な団体に加入して情報を収集してみる事です。また日々の情報としては、新聞は2紙、週刊経済誌は1冊に目を通すなど、時代の流れに眼を向けている事です。

景気回復は48ヶ月とも、24ヶ月とも言われますが、夜明けの来ない夜はありません。景気が良くなった時、間違いなく人は居なくなります。会社大好き人間で生活大好き人間の「ワークライフバランス」感覚を持った人材の確保が、今何より必要です。また「この会社のために働いてやろう!」という会社と労働者の「心の契約」が不可欠な時代になるでしょう。

「景気が悪いと嘆いてばかりはいられない。経営者としてこの時期だからこそ、やることは沢山あるようだ!」:元氣と沢山の課題をいただいた大久保先生の講演でした。

お二人の講師のご講演の後、場所をレストラン SAKURA に移して懇親会が開かれました。



井上象英副会長の「今日は岡田先生、大久保先生には長時間にわたりご講演いただき大変ありがとうございました。皆さんも有意義な一日になったと思っていらいっしょと思えます。ビスマルクの言葉に『愚者は経験に学び、賢者は歴史に学ぶ』というものがありますが、過去の賢者の生きてきた軌跡を知ることによって我々は学ぶことができます。そういう意味では今日のウィンター・セミナーは初めての試みですが、素晴らしい効果がこれから会社や日常生活の中に生かせたら良いと思えます。」とのごあいさつと乾杯のご発声で、東商オリジナル・麥科フオーラムのワインで乾杯し、懇談の皮切りとなりました。

会場は、ライトアップされた東京タワーを借景にした、落ち着いた雰囲気のある庭園を臨むレストランで、セミナーを受講した会員の方々がコースのお料理に舌鼓を打ちながら歓談のひと時を楽しみました。

閉会の辞は市瀬優子研修部リーダーの「本日は定員を超える人にお集まりいただきましてありがとうございます。これも岡田先生、大久保先生お二人のおかげです。これか



らもウィンター・セミナーを続けられるようお願いしています。」とのあいさつで締め括られ、参加者のそれぞれが学んだことを心に刻み、帰路につきました。





東商女性会・関商女性連共催

林真理子氏講演会

かつてない世況の中で生き抜く女性のありかた

3月10日（火）午後2時より、林真理子氏の講演が行われました。東商ホールの約600の座席は早々に満席となり、会員の期待の高さが伺われました。

まず、小泉清子関東商工会議所女性会連合会会長より、「大不況の中、信念を持ってあきらめず、女性らしい視点で挑戦し続けましょう。苦しいときこそ、明るく前向きなエネルギーが社会を救います。林先生の話から、ヒント・パワーをもらって仕事のエネルギーにして下さい」とのご挨拶があり、いよいよ林真理子さんが登壇されました。

出版業界も今、大

手出版社が大赤字を出したり大変な状況に置かれています。

私は、母から「結婚しなくても良いから、自立できる人になりなさい」「あなたは何も持っていないことを知りなさい」と言

われて育ちましたが、大学卒業後もなかなか就職できず、コピーライターになる20代の後半までの出会いに恵まれコピー大賞を受賞してからは、マスコミに取り上げられるようになりましたが、コピーを書くことが思いの外苦手で小説家の道を選び、今日に至っています。

「林真理子は最後の流行作家」だと言われています。流行作家とは、ほとんど書いてほとんど投資や浪費をする作家のことです。私の浪費など男



性の作家先生に比べたら比較になりませんが、3年に一度ベストセラーを出さなければ恥ずかしいという認識があります。でも、今の若い作家さんには「8年に1回くらい書いたものが適当に売れて暮らせればよい」という考えの人が多いです。そのような人たちからは意欲を感じません。意欲とはお金だけでなく、家庭サービスから得られるものもあります。子供や母へ時間をかけることは、女性で良かったという喜びを得ることができません。私は今でも「何も持っていない自分」を忘れていませんし、強い意欲も持っています。だからどんな時代であろうとも生き抜いていく自信があります。

万雷の拍手のあと、

吉川稲美会長から、

「林先生の前向きな素直な気持ちの積み重ねが今の先生を作り上げてきたのでしょう。今は大変な時代ですが、枯れたと思っていた木も新芽が出て花を咲かせます。きれいな花を見せてくれたあとには『お礼肥え』と言って肥料を与えますと、翌年にはまたきれいな花を見せてくれます。お礼肥えとはまさに感謝の心です。この時代を乗り切るため、今こそ自分を振り返り感謝の気持ちを持って、日々の努力を怠らず、春が巡ってきたときに大輪の花を咲かせられるよう努力致しましょう。」と云うことばで講演会は終了いたしました。



とばで講演会は終了いたしました。

1984年栃木県出身。2004年日本写真芸術専門学校卒業後、都心の広告写真会社に入社。撮影を仕事にする傍ら、近年は多摩川の土手や湘南の海といった、近郊の自然を主なフィールドとし、作品をスタジオのウェブサイトにて発表。無人の画面や遠景にも、そこを通り過ぎていった人の息遣いが感じられるような作品を写す。

撮影場所：東に江ノ島、西に富士山を望むくげぬまかいがん鵜沼海岸はサーフィンやビーチバレーといったビーチスポーツの、日本における発祥の地。江戸時代には幕府砲術場として近距離射撃の訓練に使われた。第二次大戦激化の1944年頃は、疎開先選ばれて辺りの人口が急増。現在は季節を問わずサーファー達が訪れる。12月のこの日も、少しモヤのかかった午後、水面に反射した日差しが彼らのシルエットを黄金色に包み込んでいる。



行事

東商女性会の今後の主な行事予定
平成21年6月5日

■ 6月19日(金)

東商女性会 会員総会・懇親会
〈於 東商ビル〉

■ 9月4日(金)

全国商工会議所女性会連合会 長野全国大会
〈於 エムウエーブ(長野)〉

■ 11月13日(金)・14日(土)

東商女性会 創立60周年記念事業
〈於 グランドプリンスホテル新高輪〉

東商女性会担当事務局よりひとこと

■ 会員交流部 部長 清水谷秀樹 (墨田支部より異動)

「この度、4月より会員交流部に赴任し、女性会担当になりました清水谷です。宜しくお願いたします。」

■ 会員交流部 会員交流センター所長 中井宏好

「今年は60周年という節目の年に担当させていただきます、引き続き、何卒、よろしくお願いたします。」

■ 会員交流部 会員交流センター 主査 長嶋収一 (地域振興部より異動)

「少しでも皆様のお力になれるよう頑張りますので、よろしくお願いたします。」

■ 会員交流部 会員交流センター 主査 小林利恵子

「今後とも、引き続き、ご支援のほどよろしくお願いたします。」

この冊子に携わった人々

大石アケミ	太田みどり
大津 洋子	小笠原尚子
岡本美智子	奥永 久美
鈴木 紀子	高田 悦子
椿 克美	中西志保美
林 香都恵	二木 玲子
宮川 則子	保田 和江
山口 玲子	

(以上お名前は50音順)

田中L.洋子

編集後記

東商LADYは、情報広報部が毎月テーマを持って取組んでいます。13号は「東商女性会新体制発足」、14号は「エコ」、そして今号は「先達に何う」でしたが、結果的には「家族の心」が通奏低音となって全編を貫いたように思います。皆様いかがだったでしょうか。

岡田氏のセミナーでは、十代前半で両親を亡くすも、その教を終世無くさず大成した二宮尊徳像。戦線で夫君を失われ、お母様の勧めで着物屋を開業、と語られる小泉名誉会長。B29が山道に落とした爆弾にお姉様を奪われ、命を守る使命を抱かれた美安顧問。

震災による“怯え・無力感”を子供達の心から除きたいと願う、母心をうかがった新潟交流会。家族を迎えるかのように親身で温かかった大阪、広島、沖縄の大会。横浜開港150周年の舞台に兄弟のように並んだ条約締結国代表。

そして企業も1つの家族なら「この会社の為に働きたいと感じる社員との『心の契約』が、これからの経営者にとって一番大きな力となるだろう。」と、大久保氏は説かれました。

ご投稿の皆様のお写真が大変に見事なので、15号よりカラーで発行します。表紙写真も引き続き <http://joseikai.tokyo-cci.or.jp> のメールフォームより「表紙写真」で受付中です。

東商女性会 情報広報部リーダー：田中L.洋子



商工会議所女性会

東商女性会は2009年、創立60周年を迎えます

東商女性会 創立60周年記念事業

11月13日(金)・14日(土)

グランドプリンスホテル新高輪



東商LADY

2009年5月26日 第15号

発行所

東京商工会議所会員交流センター

発行人

東京商工会議所女性会

会長 吉川稲美

編集人

東京商工会議所女性会

<http://joseikai.tokyo-cci.or.jp/>

情報・広報部

表紙写真:藤川 歩美 (株)ウェストゲートウェブサイトギャラリーより